

第2回大和高田市シビックコア周辺地区まちづくり意見交換会 議事要旨

日 時：2018年7月18日（水）13:30～14:45

場 所：市役所4階合同委員会室

出席者：別紙のとおり

1. 開会

- ・開会あいさつ（事務局）
- ・配布資料確認（事務局）
- ・会議成立の報告（事務局）
- ・会長あいさつ（松田副市長 - 会長）

2. 委員・アドバイザー紹介

3. 議事

議題1. 市民アンケート調査の実施報告について

事務局より、次の資料について説明を行った。

- ・資料1：市民アンケート調査結果

<松田会長>

特に質問がないようなので、議題2に移る。

議題2. 市民ワークショップの実施報告について

事務局より、次の資料について説明を行った。

- ・資料2：市民ワークショップ報告書

【質疑応答事項】

<三井田先生>

アンケート調査の結果を公表してほしい。市民参加で計画づくりを行うとするならば、知らせるべきだ。

<事務局>

アンケート調査結果は、市のホームページで公表しようと考えている。

<三井田先生>

ホームページに公開すればみんなが見ていると思っているようだが、高齢者はホームページを見ていないので、高齢者が見ている市民だより等の媒体で公表すべきではないか。ワークショップについても同様である。

<事務局>

公表方法について検討する。

<松田会長>

公共施設の場を借りながら、いろいろな媒体の活用を考えると良いだろう。年代層の若者、高齢者の違いを考慮するとともに、本地区に関することなので図書館に置くなど、多様な方法があると思うので検討してほしい。

<松田委員>

市民アンケート調査は1月、その後旧奈良県中和労働会館は3月に閉鎖になった。中和労働会館の閉鎖について、市民アンケート調査を実施する際、アンケート調査対象者にその件を報告していたのか。

<事務局>

明らかになっていない時点でのアンケート調査であるため、報告していない。

<松田委員>

旧奈良県中和労働会館の閉鎖について、市民は知らない状況での調査ということか。

<事務局>

その通り。

<松田会長>

基本構想において、賑わいゾーンの中にまちの駅があるということを示す必要がある。案を説明しながら、意見の収集をしなければならないと思う。

<事務局>

基本構想図においては、旧奈良県中和労働会館の用地に限定したものでなく、賑わいゾーンの中のどこかでまちの駅を整備したいと考えている。旧奈良県中和労働会館が中心になるのではないだろうか、という程度くらいである。今後、県と個別協定を結んでいく段階で、さらに細かいところまで検討していく。

<松田会長>

地域包括センターの強化について、市民アンケートでは高い関心があるのに、ワークショップでは低かった。なぜなのか。

<事務局>

対象者が違うことが大きな差の原因と思われる。市民アンケートはすべての年代が対象で、ワークショップは若い大学生が参加した違いがあるが、明確な解析は行っていない。

議題3. 大和高田市シビックコア周辺地区まちづくり基本計画（素案）について

事務局より、次の資料について説明を行った。

- ・資料3：基本計画案の概要

<松田会長>

資料③の4ページ「基本となる取組」の2行目に「ワンストップサービス」とあるが、これはどういう意味か。

<事務局>

市民目線での行政サービスとして、各種の相談、届出や証明書交付などを1つの窓口で行えるような仕組み作りが必要であるという考え方である。例えば、パスポートを取る際には、市で戸籍証明を取り、県のパスポートセンターに行くことになるが、それらを1箇所で手続きができないか。市役所内にある銀行窓口では収納業務だけでなく、一般の業務も行えば、市民の生活利便性の向上につながると思う。

<谷河委員>

中央公民館、図書館の建替について、資料③の6ページでは平成35年度以降の長期的事業に位置付けられている。築44年経過している建物であるが、これで良いのか。

<事務局>

新庁舎建設を先行整備しているので、その後において中央公民館、図書館などとの合築を含めて検討したい。

<松田会長>

短期的事業、中期的事業、長期的事業の説明は先ほどあったが、もう一度あらためて、それぞれの捉え方について説明してほしい。

<事務局>

短期的事業とは「基本計画策定から5年以内に完了する見込みの事業」、中期的事業とは「短期的事業に当たらない事業で、基本計画策定から5年以内に着手する見込みの事業」、長期的事業とは「短期的事業、中期的事業のいずれにも当たらない事業」である。

<谷河委員>

庁内で再度検討・整理すべきであると思う。

<事務局>

各担当課からの意見を集約して事業スケジュールを記載している。中央公民館、図書館の建替えを中期的事業に押し上げるには、次のステップで見直してはどうかと考えている。

<松田会長>

期間の整理の仕方、長期的といった捉え方は、逃げようと思ったら（解釈によっては）いくらでも逃げられる（解釈できる）と思うので、その捉え方をもう一度検討すべきかもしれない。長期とは、何か棚上げしているようにも見える。

<事務局>

県の包括協定の中での事業期間の取り扱い方において長期的事業とは、短期、中期以外の事業となっている。概ね5年ごとの見直しを行うので、その際再検討してはどうかと考えている。

（*事業区分については、県作成の「連携協定活用マニュアル」の定義）

<松田会長>

まちづくり計画のラインで重要な要素であるが、公共施設等総合管理計画も重要であり、これとドッキングする必要がある。

<山口委員>

公共施設等総合管理計画は、平成32年度策定を目途に、個別の計画づくりをすすめているが、すべての施設について決定できないかもしれない。各施設の担当課に質問を投げた段階で動き出したばかりで、各担当課が検討を始めている。本計画と整合を図る必要があると考えている。

<松田会長>

相互の作業の中で、十分協議していくことが必要である。

＜三井田先生＞

行政が作っている基本構想、基本計画では、ここに示されているような文章表現になると思うが、市民が見える、市民が実感できるまちづくりの目標を謳っても良いと思う。

市民アンケートでは千本桜、生活道路、駐車場の整備などが多く出ている。ワークショップではインスタ映えなど挙げられており、これらのキーワードが大切である。例えば、高田川の遊歩道では、きれいな写真を撮る場所がないので、木橋に架け替える、化粧し直すなどができないものか。そんなにお金もかからないと思う。

市役所として短期、中期、長期を設定するのは分かるが、見える目標があってそれが積み重なって大和高田が変わっていくことが実感できる一里塚のようなものが必要である。

最近、空家、空地の問題が出ているが、これに関することを本計画に入れてほしい。空家の活用や地域住民の管理によるポケットパーク整備など検討してほしい。

本委員会のすすめ方を工夫してほしい。事前に資料を配布し、先に意見書を提出してもらえば、そこから意見を積み重ねることができると思う。大学のワークショップで実践しているが、良いやり方だと思う。

＜松田会長＞

レポートの提出などは敷居が高いので、せめて事前に資料を配るなどして、メモをもらうようにしてほしい。

＜事務局＞

次回の意見交換会に向けて検討する。

＜松田会長＞

空家に関することは、大切である。

短期的事業で見える形、市の計画をマイルストーンとしてアピールするよう工夫してほしい。

＜事務局＞

木橋整備などは、具体的な計画内容となるので、今後の県との個別協定の中で検討ができると思う。まちづくり基本計画を公開することになるので、空家や空地の具体的活用方法は断言的な表現は難しい。

＜松田会長＞

空家や空地の対応に関することは、今すぐに答えは出せない。市がまず何ができるかを考えて、それを積み上げた上で、実際にできそうなものを一つでも県との協議に入るといったことが重要である。慌てて、何でもすぐに載せる必要はない。

以上で、議事を終了する。

4. その他

事務局より、次回の意見交換会の日程予定について説明を行った。
次回は9月頃を予定している。

5. 閉会

- ・閉会あいさつ（杉本部長）

以上